

「住み慣れた家、わが子が通っていた学校から遠く離れた場所に、夫の転勤で転居していました。9年ぶりに転勤先から戻ってきたとき、わが子が通っていた学校の荒れ果てた様子にびっくりしたのです。」と話したのは、Hさんでした。

民生委員、青少年育成委員となり学校の会議への出席で学校を訪問するようになりました。また学校改革に情熱を持った校長先生との出会いをきっかけに、Hさんは学校の玄関に花を生けるようになりました。

校長先生は、子ども達の学習環境を整えようと、学校中に書写で温かい言葉を掲示していました。はがされてもはがされても、書き続けていたそうです。トイレ掃除に力を入れ、校内の壁のペンキ塗りをしようと提案しました。すると多くの保護者が立ち上がり、みんなで学校中の壁にペンキを塗り、見違えるようにきれいな校舎となりました。校長先生の情熱が、保護者に届いた結果なのです。

Hさんは、玄関の生け花から、トイレの一輪挿しを一人で始めましたが、一人増え、二人増え、今では常に五、六人の地域の方々为学校中に花を生けているそうです。17教室、男女8か所のトイレ、職員室、事務室、保健室と本当に学校中に、庭に咲いた花、また地域の人が家庭菜園で育った花を持ってきて毎週生ける。まさに地域の方々の心の花が学校中を包み込んでいる感じです。

毎週月曜日の午後に、Hさんたちは花を生けに来てくださっていますが、いつの間にか月曜日になると、1階昇降口前の手洗い場に、多くの花瓶が並ぶようになりました。環境委員の子ども達が、月曜日の昼に教室から手洗い場に花瓶を持ってきて、Hさんたちを待ち構えているのです。Hさんたちは、時には昼休みに家庭科室で生け花教室を実施し、生徒自身が、自分の教室に飾る花を生けるようになりました。花の名前を知り、季節を感じ、また自分の教室に飾ることで花への愛着を感じるようになりました。子ども達にとってとてもいい環境であるとともに、Hさんの仲間たちにとってもいい影響があるようです。

「学校での生け花に携わって、元気になった。外に出られるようになった。」とおっしゃる方や、みんなで生けていると、通りがかった生徒や先生方から「ありがとう」「いやされる」などの言葉をかけられ、「この活動は自分のためにやっている、やらせていただいているという気持ちになる。」との言葉が出てきたのです。

この事例こそが、地域連携、「わが街の学校」そのものだと思います。2020年度から小学校で、2021年度からは中学校で、学習指導要領が完全実施となりました。文部科学省では、学習指導要領のポイントとなる「社会に関かれた教育課程」の実現に向けて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動の一体的な推進による地

域と学校の連携・協働体制の構築を推進しています。

また、第三期教育振興基本計画（2018年6月15日閣議決定）においては、2022年度までに「すべての公立学校において学校運営協議会制度が導入されること」、「すべての小中学校区において地域学校協働活動が推進されること」を目指しています。

コミュニティ・スクールは、学校が地域住民や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を可能とする、「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。また高等学校では、新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させて、経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の社会として内閣府が提唱）を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進します。

自治体、高等教育機関、産業界などと協働して共同事業体を構築しようとしています。これは地域における活動を通じた探求的な学びや、学校の中だけではできない多様な社会体験を可能にします。高校生のうちに地元地域を知って地元への定着やUターンが促進されることと、地域の活動に高校生が参画して地域活力の向上へ貢献できるようにすることがねらいです。

このように学校は開かれた学校となるように変わっていきます。社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力をつけられるように、また健やかな成長を見守れるような社会の実現に、我々大人が努力したいと考えます。

皆さんも学校ボランティアとして、学校に貢献してみませんか？すると人々が「元気！」になり、それがご自身の生き甲斐にもなり得るのです。

（書籍『小象の 元気！で行こう』 第58話より）